

秋経協・二水会第123回(2月)例会

# 令和8年春季労使交渉・協議対策 講演会

～賃金引き上げの力強いモメンタムの「さらなる定着」へ～



2月10日、秋経協・二水会の第123回(2月)例会が秋田市のホテルメトロポリタン秋田で開催された。菅原労務対策委員長、秋経協会員の参加も得て36名が出席し、「令和8年春季労使交渉・協議対策」に関する講演を聴講した。

講演に先立ち赤石代表幹事が挨拶し、「ほとんどの企業が人手不足状態にあるなか、本日の講演から得られた情報を今後の賃金・処遇決定にかかる労使交渉に活用していきたい」と述べた。

続いて、経団連の労働政策本部 統括主幹 山田佑氏が「2026年版経営労働政策特別委員会報告」(経労委報告)に沿って講演を行った。

はじめに、賃金引き上げの力強いモメンタムは2023年を「起点」として2024年に「加速」し、2025年には「定着」が実感できる状況となったことに言及し、経団連としては賃金引き上げの力強いモメンタムの「さらなる定着」に向けて、今年の春季労使交渉に臨む方針にあると述べた。その後は第1部「さらなる定着」が必要な理由、第2部「さらなる定着」に向けた基本的な考え方、第3部「さらなる定着」の具体策の順に解説したうえで、生産性の改善・向上に加え、サプライチェーン全体を通じた適正な価格転嫁の推進や政府・地方自治体等による取り組み、社会全体における環境整備が不可欠であるとし、各企業の積極的な検討と実行を呼びかけ、講演を締めくくった。



講師 経団連 山田佑氏